

よく考え、すすんで学習する子供の育成  
～対話力を高める指導の工夫～

I 主題設定の理由

本校では、平成22年度から「確かな学力」に目を向けた研究に取り組み、特に「表現力」の育成に焦点を当てて研究を進めてきた。「表現力」を向上させていくことが、「確かな学力の向上」につながり、児童の意欲向上や主体的な課題解決につながると考えたからである。

昨年度の研究では、相手を意識した表現力の向上について様々な手だてを試みた。個で考える時間を確保したり、身近なペアで相談したりすることで、自分なりに考える習慣が身に付き、友達に伝える力や友達の意見を聞いたりする力が身に付いてきた。しかし、表現した内容を生かし、互いの意見を聞き合い、関わり合って学ぶという双方向の表現について課題がみられた。

日常生活では、挨拶、会話、伝達などが適切にできる力が必要である。また、学年に応じて場に応じて、必要な意見、感想を表現できるようにしていかななくてはならない。対話力とは、言葉を受け止める力、受け止めた言葉を自らの思いや考えを突き合わせて吟味する力、相手の立場や考え、思いなどに配慮しながら言葉を返す力などの総称である。この対話力を身に付けることで、学びが深まっていくような学習を目指し、本年度の研究を進めてきた。

II 研究仮説

対話力を育てる指導を工夫することで、確かな学力が向上し  
よく考え進んで学習する子供が育成できるであろう

III 研究の具体的な内容と方法について

研究（1）

- ①対話力についての学習会    ②対話力に関する実態調査
- ③発達段階や教科の特性に応じた対話力の系統化
- ④ブロック別の研究会
  - ・ブロックの課題の明確化    児童に付けたい力（目指す子供像）の共通確認
- ⑤授業実践
  - ・ブロックごと1本ずつ（ブロック別の共同研究）    教科は自由
- ⑥一人一実践の取り組み

研究（2）日常的な言語環境の充実

- ①話しやすいクラスの雰囲気作り    ②聴き方・伝え方の指導
- ③語彙を広げる指導

IV 研究実践

1 学習会

「通常学級に在籍する支援を必要とする子への具体的支援方法について」

講師 山梨県総合教育センター相談支援部 部長 土肥 満先生

## 2 検証授業

(1) 第3学年1組 音楽科授業実践「金管楽器の音色を感じ取ろう」

授業者 鈴木 奈津美

(2) 第4学年1組 算数科授業実践「広さを調べよう」面積のはかり方と表し方

授業者 日原 英二

## 3 一人一実践

第1学年1組 道徳授業実践「仲良くするための言葉」(CSSの獲得)

授業者 保坂 穂波

第2学年1組 国語科授業実践「知っていることとつなげて読もう おにごっこ」

授業者 雨宮 和美

第2学年2組 国語科授業実践「紹介文を書こう 友達のこと知りたいな」

授業者 長沼 薫

第3学年2組 算数科授業実践「三角形のなかまを調べよう」

授業者 飯田 憲政

第4学年2組 算数科授業実践「広さを調べよう」

授業者 中根 淳

第5学年1組 算数科授業実践「図形の角を調べよう」

授業者 橋本 尚一

第5学年2組 算数科授業実践「図形の角を調べよう」

授業者 島田 直美

第6学年1組 図工科授業実践「墨のよさや、美しさを発見しよう」

授業者 安富 智恵美

第6学年2組 算数科授業実践「資料の特ちょうを調べよう」

授業者 若月 敬二郎

第6学年1組 理科授業実践「てこのはたらき」

授業者 清水 芳彦

ひまわり学級 自立活動授業実践「正しい発音をしよう」

授業者 武井 由美

## V 成果と課題

### 1 成果

- ・教師側が「対話」を意識し、ペア学習やグループ学習を日常的に取り入れたことで、少人数での話し合いがスムーズにできるようになり、児童の対話力が高められた。
- ・教師が対話について意識をすることにより、様々な授業形態に取り組んだり、発問や支援に工夫を凝らしたりする取り組みができた。(隣→班→全体による話し合い活動)
- ・全体での話し合いでハンドサインを活用することで、自分の考えと友達の考えを比べながら思考する姿が見られた。
- ・授業研究を通して、国語科以外の教科で、伝え合う力を育てる手立てを学ぶことができた。

### 2 課題

- ・「対話力」が向上してきたかどうか、目に見える形で成果を検証し、評価することが難しい。また、単なる会話から対話へと伝え合う力の質を上げていくための具体的な手立てをさらに探っていく必要がある。

(研究主任 橋本 尚一)